日本遺族通信

平成28年2月15日
第782号

一般財団法人日本遺族会
〒102-0074東京都千代田区九段南一丁目六番十七号
千代田会館二階
電話　03－3261－5521
振替　00160-6-25389
編集発行人　畔上和男
毎月1回15日発行
定価　1部130円（税込）

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

天皇・皇后両陛下 フィリピンを公式訪問
日比両国戦没者を慰霊

天皇、皇后両陛下は、一月二十六日から、日本との国交正常化六十周年を記念して友好親善と戦没者の慰霊のためフィリピン共和国を公式訪問された。慰霊は両陛下の強い意向を踏まえて日程に盛り込まれ、犠牲となった日比両国の戦没者を追悼し、平和の祈りを捧げられた。二十九日には、戦没者遺族等が出迎える中、「比島戦没者の碑」に供花された。

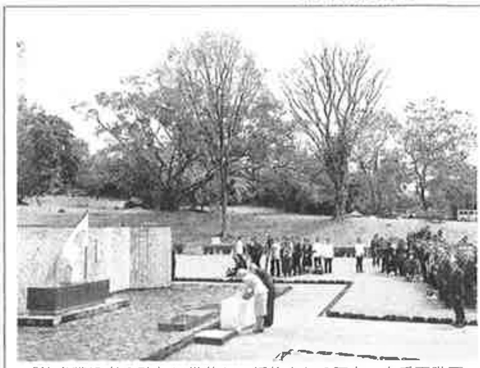
天皇、皇后両陛下は二十六日、政府専用機で羽田空港を出発され、マニラ空港に到着し、アキノ大統領らに迎えられた。両陛下のフィリピンご訪問は両陛下が皇太子、皇太子妃だった昭和三十七年に昭和天皇の名代として初訪問以来五十四年ぶりであり、歴代の天皇、皇后両陛下としては初の訪問となった。

二十七日、両陛下はフィリピンの退役軍人などが埋葬される「英雄墓地」を訪れ、先の大戦のフィリピン人戦没者を追悼する「無名戦士の墓」の慰霊碑に花輪を供花された。

同夜、マニラ市のマラカニアン宮殿での大統領主催の晩餐会に出席され、天皇陛下はご答辞で、「昨年私どもは、先の大戦が終わって七十年の年を迎えました。この戦争においては、貴国の国内において日米両国間の熾烈な戦闘が行なわれ、このことにより貴国の多くの人が命を失い、傷つきました。このことは、私ども日本人が決して忘れてはならないことであり、この度の訪問においても、私どもはこのことを深く心に置き、旅の日々を過ごすつもりでいます」と今回の慰霊訪問に対する思いを述べられた。

二十九日、両陛下はラグナ州のカリラヤ日本庭園内の「比島戦没者の碑」を訪れ、日本から駆けつけた戦没者遺族、元生還兵らが見守る中、白菊の花を手向け、深々と拝礼され、フィリピンで戦死した日本兵の冥福を祈られた。その後、出迎えた遺族が並ぶ列に歩み寄られ、前方に並んだ遺族一人一人の話を聞かれ、予定よりも大幅に時間を延長し、お声をかけられた。

三十日、両陛下は五日間の友好親善と慰霊の旅を終えられ帰国された。


「比島戦没者の碑」に供花し、拝礼される天皇・皇后両陛下
＝1月29日、フィリピン、カリラヤで

お出迎えした遺族関係者らとお言葉を交わされる両陛下
＝1月29日、フィリピン、カリラヤで

水落会長・比国戦没者遺族89人 両陛下をカリラヤでお出迎え

日本遺族会は、水落敏栄本会会長（参議院議員）を総括団長とする「天皇皇后両陛下フィリピン共和国慰霊訪問に伴うお出迎え等事業」参加者四十四人並びに「フィリピン慰霊友好親善訪問団」団員四十五人で、カリラヤの「比島戦没者の碑」を慰霊に訪れる両陛下をお出迎えした。

二十九日に一行は、早朝宿泊先のホテルを出発し、午前十時にカリラヤの「日本庭園」に到着。同じく両陛下お出迎えのために訪問していた岩手県遺族連合会の慰霊団と合流し、慰霊碑前に集合した。

十時三十分から、厚生労働省、日本大使館職員の指示に従い、お出迎え時の並び位置を確認し、両陛下の御到着を待った。

十一時四十五分、両陛下が到着され、朝から降り続いていた雨も雲間から光が差し込みはじめ、両陛下の到着とともに青空が広がった。

両陛下は、二川一男厚生労働事務次官の先導で、慰霊碑前の供花台にゆっくりと進まれ、日本から持参された白菊の花束を供え拝礼され、出迎えた一同も両陛下に合わせて拝礼した。

その後、整列している遺族の前で立ち止まり、参道から芝生に足を踏み入れた両陛下は、遺族の話にじっくりと耳を傾けられていた。

最後に、両陛下と事前にお言葉を交わすことが決まっていた水落会長をはじめ、本会関係者の杉山英夫本会理事（静岡県遺族会会長）、田原政信本会評議員（富山県遺族会会長）、岸野弘本会理事（兵庫県遺族会会長）に対し労いの言葉をかけられた。天皇陛下は、水落会長に「これまで遺族のお世話をしてくれてありがとう。遺族も高齢化してきたので、これからも平安な暮らしができるよう力を尽くしてください。」とお話しされた。

慰霊は予定されていた二十分間を超え四十分以上に及び、両陛下の戦没者遺族に対する深い思いに触れ、感激のあまり涙する遺族の姿も見られた。

両陛下がお立ちになられた後、訪問団は碑の前で全戦没者追悼式を挙行し、水落総括団長が追悼の辞を読み上げ、参列者全員が献花し、最後に「ふるさと」を合唱して、亡き肉親に哀悼の誠を捧げた。

両陛下と皇居・御所で懇談
水落会長ら三人が出席

天皇、皇后両陛下は一月十八日、一月二十六日からのフィリピン共和国訪問を前に、先の大戦で同国において父親を亡くした戦没者遺児を皇居・御所に招き懇談された。

出席したのは、仲沢誠也氏（本会常務理事・秋田県遺族連合会会長）、伊藤早苗氏（本会常務理事・三重県遺族会副会長）の二人と、水落敏栄本会会長が同席した。

両陛下は約五十分にわたり二人の父親の戦死した状況や戦後の生活の苦労について話を聞かれ、仲沢氏が、生後まもなく出征した父の顔を知らず、戦後は寂しい思いをしたことを話すと両陛下は「母一人子一人で大変でしたね」と述べられ、伊藤氏が、父が激戦地コレヒドール島で戦死したことを説明した際には、両陛下から「大変なことでしたね」といたわりのお言葉をかけられたという。

声なき声

暖冬から一変「闇深き海の咆哮雪越し」のごとく、大寒を過ぎた頃から日本海側を中心に北陸・山陰・九州と各地から大雪の便りが届いた▼そんな中、天皇・皇后両陛下が気温30度のフィリピンに行幸啓された。国交正常化60周年を記念しての訪問である。1月29日カリラヤ慰霊園内にある「比島戦没者の碑」を訪れ旧日本兵51万8千人の冥福を祈られた。白菊の花を捧げ、頭を深くさげ黙祷。その後本会のお出迎事業等参列者約130名の遺族が見まもる中30分以上に渡り、前列に並んだ一人一人の前で立ち止まり、予定を大幅に延長しお話をじっくりと聞かれた。両陛下のお心遣いにはいつも胸が熱くなり、感極まる所である▼また先の戦争では戦場となった比側でもマニラ市街戦で10万人もの民間人を含め111万人の犠牲者を出した。当時の国民の16人に1人という。陛下は羽田で出発に先立ち、「膨大な数に及ぶ無辜の比市民が犠牲になり、この事を常に心に置き、この度の訪問を果たしてきたい」とも述べられた。ホセ・リサール像や無名戦士の墓にも供花され配慮を示された▼今回の訪問は両国の戦没者への慰霊はもとより、子・孫等将来をになう次世代間のかけ橋になると信ずるものである…雨の降っていたカリラヤでは陛下の到着に合わせ青空が広がっていた。（A）

慰霊巡拝の旅は、エムオーツーリストにご相談下さい。

M.O.TOURIST CO.,LTD.
エムオーツーリスト株式会社
観光庁長官登録旅行業第1610号
〒105-6115
東京都港区浜松町2丁目4番1号
世界貿易センタービルディング 15階（私書箱7号）
TEL:(03)3432-7242
FAX:(03)3433-2282
担当：鴨田・大野
（総合旅行業務取扱管理者／稲葉和勝）
（社）日本旅行業協会正会員
旅行業公正取引協議会会員
（営業時間:月～金曜日 9:30～17:30 土・日・祝祭日は休業いたしております）

海外への戦跡巡拝、慰霊をお考えの方は、是非弊社にお問い合わせ下さい。
【過去の実績】
・西部ニューギニア
・東部ニューギニア
・ミャンマー
・ロシア　他